

< 各事業の概要及び進捗状況 >

1 県民活動への理解や参加の促進

活動に対する関心が高まっている一方で参加につながっていないという現状等を踏まえながら、様々な形で広報・普及啓発を行うだけでなく、より多くの県民が参加機会を得られるよう、活動体験の場と機会の提供に努めます。

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標1-1] 市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合	41.9% ¹	目標	46.0%	50.0%	55.0%
		結果	45.1%	48.1%	
		目標比	-0.9p	-1.9p	
		前年比	+3.2p	+3.0p	
[指標1-2] ボランティア活動に参加したことのある人の割合	33.9% ¹	目標	36.0%	38.0%	40.0%
		結果	28.2%	43.6%	
		目標比	-7.8p	+5.6p	
		前年比	-5.7p	+15.4p	

1 第54回県政に関する世論調査結果より

(1) 県民活動の普及啓発の推進

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
1	千葉県ホームページでの情報発信 〔県民生活・文化課〕	県ホームページの特設サイト「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」において、NPO法人情報及び県のNPO・ボランティア関連施策情報、民間団体からの助成情報等を掲載する。 また、ボランティア関連情報のページに、各種ボランティアの募集情報や東京オリンピック・パラリンピック関連情報、災害ボランティア関連情報等を掲載する。	千葉県NPO・ボランティア情報ネット」関連ページビュー数 900,000件	【アクセス件数】(R2年1月末現在) ・県ホームページ(「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」関連ページ)ページビュー数:343,213件 【情報発信件数】(R2年1月末現在) ・民間団体等からの助成情報:81件 ・千葉県が募集しているボランティア情報:22件	ボランティア関連ページビュー数については、目標達成が難しい見込みとなっているため、今後は、関連ページへのリンクを掲載するなど、アクセスしやすいページづくりを心掛け、ページビュー数の増加に向けた工夫を行っていくことが必要です。 また、今後も各種ボランティアに関する情報や民間団体等の助成情報等を随時更新していきます。
2	NPO・ボランティア情報マガジンの配信 〔県民生活・文化課〕	NPO・ボランティア活動関連の各種事業やイベントなどの情報を随時配信する。また、ボランティア活動の参加を促す効果的な情報発信の方法について検討する。	年24回 (月2回)配信	配信回数:20回(R2年1月末現在) 内容:研修会、イベント情報、助成金情報、ボランティア情報等。 会員数:2,553名	メールマガジンは月2回のペースで配信しており、目標の達成が見込まれます。今後も引き続き、効果的な情報発信の方法について検討していきます。
3	県民活動情報オフィスの運営 〔県民生活・文化課〕	県庁本庁舎2階の「県民活動情報オフィス」において、NPO法人の縦覧及び閲覧、NPO法人の設立時の各種相談、NPO・ボランティア関連情報の提供、ミーティングルーム等の貸出等のサービスを提供する。	オフィス利用者数 1,500名	オフィス利用状況(R2年1月末現在) NPO法人等の各種相談:56件 情報検索等窓口対応:270名 電話問合せ等対応:306名 ミーティングスペース利用:854名 計 1430名	県民活動情報オフィス利用者数は、目標を概ね達成する見込みです。 今後とも、オフィス機能の見直しや強化について検討するとともに、オフィスの利用促進に向けて、県ホームページや各種研修会等で広報を行っていきます。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	評価
4	県民向け市民活動・ボランティア普及啓発 〔県民生活・文化課〕	市民活動の基礎知識等を掲載したリーフレットや、各種普及啓発用グッズを様々な機会を捉えて配布し、県民活動の普及啓発をおこなう。	各種行事への出展 3回	【結果】 6/16 県民の日中央行事 参加者:1,000名 10/20 エコメッセ 参加者:500名 12/9 CHIBA市場 参加者:300名 2/2 かまがや市民協働男女きりりフェスタ 参加者:50名	今までに出展のなかった行事に出展し、また、出展目標の3回を達成することができました。 次年度以降も市町村の市民活動フェスタ等への出展を検討していきます。
5	都市ボランティアの募集・運営 〔県民生活・文化課〕	東京2020大会開催時及びその前後の期間において、会場最寄駅や主要駅、空港などで本県を訪れる旅行者等に対して、交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う「都市ボランティア」を募集し、関係市町と連携し運営をする。さらに、東京2020大会に向けた取組を一過性のものとせず、醸成した機運や活動の継続などを県全域に波及させ、大会後のレガシー(持続的効果)として、ボランティア活動の更なる発展につなげることを目指す。	5エリアでの共通研修の実施。 メルマガ配信5回。	5エリアで計29回の共通研修を実施。(台風による中止2回、新型コロナウイルス感染症の影響による中止1回) メルマガ25回配信。(2/28現在)	共通研修では、Field castと同様のテキストによる「東京2020大会の概要」や「障害のある方への理解を深める内容」に加え、千葉県独自のテキスト・ハンドブックにより、千葉の観光・魅力発信や県内交通、観光を活用した効果的な発信方法を学ぶ研修を実施しました。メルマガも目標を大きく上回って配信することができました。
6	県民活動PR月間の実施 〔県民生活・文化課〕	NPO法施行日である12月1日前後の1カ月(11/23～12/23)を「ちば県民活動PR月間」とし、県民にNPO・ボランティア活動を知ってもらい、活動への参加に繋がるようなイベントを行う市町村や市民活動団体へ広報支援を行う。	ちば県民活動PR月間賛同行事 20件	(R2年1月末現在) 市町村賛同行事:20件 市民活動団体賛同行事:3件	市町村及び市民活動団体に対し、ちば県民活動PR月間賛同行事の募集をおこない、応募のあった団体に対して、千葉県HPへの掲載やPRグッズの提供等の広報支援を実施しています。 目標の20件を上回る、23件の行事に対して支援を行っています。今後も多くの賛同行事の応募に向けて広報に努めていきます。
7	出前説明会等の実施 〔県民生活・文化課〕	NPOやボランティアの基礎知識、県の施策状況などについての説明会を県内各地に赴き、実施する。	開催回数:15回	開催回数:9回	昨年度、申込のあった高等学校等からの申し込みがなかったことにより実施回数が減少しました。引き続き広報等の強化に努めていきます。
8	法人化説明会の実施 〔県民生活・文化課〕	NPO法人格の取得を検討している方を対象に、NPO法人制度や設立手続についての説明会を千葉市と共催で月1回開催する。また、うち4回は夜間に開催する。	開催回数:12回	開催回数10回 参加者数48人(R2年1月末現在) (内訳) 第1回(4/11)3人、第2回(5/9)0人 第3回(6/13)2人、第4回(7/11)7人 第5回(8/8)9人、第6回(9/12)4人 第7回(10/10)4人、第8回(11/14)7人 第9回(12/12)6人、第10回(1/9)6人	目標の達成が見込まれます。 今後も、法人格取得を目指す人々の県民活動への理解・参加を促進するために、個別の相談にも随時対応し、法人化説明会等の内容を充実させていくことが必要です。

1 県民活動への理解や参加の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
9	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業 〔警察本部生活安全総務課〕	自主防犯活動に意欲のある若い世代(県内の大学等に在籍、又は県内に在住、若しくは在勤する16歳以上30歳未満)により若手防犯ボランティアグループ「ブルー・スターズ」を結成し、自主防犯活動への参加・取組による若年層の防犯意識や規範意識の向上を図るほか、地域における絆の強化を図る。また、若年層等による自主防犯活動の一層の活性化のための広報啓発を実施する。	若い世代の防犯意識や規範意識の向上を図ります。	(防犯キャンペーン及び研修会への「ブルー・スターズ」の参加回数と人数) 延べ18回74人、新規会員21人(R年12月末現在) 【ブルー・スターズ参加のキャンペーン等】 密輸防止キャンペーン(成田市) ロックの日防犯キャンペーン(千葉市) 電車内における痴漢防止キャンペーン(千葉市、鎌ヶ谷市、習志野市) 薬物乱用防止キャンペーン(千葉市) 警察ふれあいフェスタ(千葉市) 第2回千葉県警察若手防犯ボランティア研修会(警察本部) 地域防犯力の向上に関する交流大会(千葉市) 歓楽街防犯対策パトロール(千葉市、松戸市等) イオンベッフェスにおけるわんわんパトロール啓発キャンペーン(千葉市)	県内各地で開催された防犯キャンペーン等に「ブルー・スターズ」の会員が参加したことにより、若年層の防犯意識や規範意識の向上が図られました。 若い世代の防犯ボランティア団体相互の交流を深め、各団体の活動の活性化と子供の見守り活動等への参画意識の高揚を図るため、「第2回千葉県警察若手ボランティア研修会」を開催し、生活安全部内が事務局をしている「ブルー・スターズ」(生活安全総務課)、「ChiPSS」(少年課)、「サイバーウォッチャー」(サイバー犯罪対策課)の3団体が参加しました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでいることから、新規会員の加入促進を図るとともに、次世代のボランティアリーダーの育成、会員による自主的な運営、県内の他団体との交流を図ることが課題です。
10	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業 〔警察本部生活安全総務課〕	県内で活動する自主防犯ボランティア団体に対して、地域の防犯情報を提供するほか、警察官との合同パトロールを実施する。その他、自主防犯ボランティアの活動の活性化を図るため、県下各署において、自主防犯パトロール隊や町会等を対象に防犯講話や情報交換会を開催する。さらに、自主防犯ボランティアへの参加促進等を図るため、広報啓発活動を実施する。	防犯講話や情報交換を通じて、自主防犯活動団体に対する支援を推進します。	・警察官との合同パトロール 2,135件 ・防犯講話 5,963件 ・広報啓発キャンペーン 831件 (いずれもR元年12月末現在)	合同パトロール、防犯講話等の実施により、自主防犯ボランティア団体の活動の活性化が図られました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでおり、若い世代の参加促進を図ることが課題です。

(2) 県民活動を体験する機会の提供

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
11	ボランティア活動への参加促進 〔県民生活・文化課〕	県全体のボランティア活動の推進を図るため、活動体験等を通じた地域のボランティア活動への参加のきっかけづくりを行う事業を実施する。	2事業の実施	企画提案による業務委託で実施。 採択2団体(応募2団体) NPO法人さすが一の宮「着物体験でもてなそう!サーフィンのまち一宮、千葉と世界をつなぐおもてなしボランティア」 ・前期ボランティア講習会(7/25着物リメイク7名、8/3語学39名、着付け27名) 参加者73名 ・着物体験プログラム(8/16ボランティア13名、参加者10名、9/13ボランティア13名、参加者12名、10/13中止)参加者48名 ・後期ボランティア講習会(2/2・着物リメイク15名、語学30名)参加者45名 合計参加者数166名 ディープデモクラシー・センター「チーボラ大作戦2019」 ・連続講演会「希望をつくりだすのは、あなた。」11/3生活困窮者支援15名、11/16高齢者支援15名、11/17知的障がい者支援18名 参加者数48名	「着物体験でもてなそう!サーフィンのまち一宮、千葉と世界をつなぐおもてなしボランティア」 ・オリンピック会場である一宮町で大会期間中に日本文化のおもてなしが出来るボランティアを育成するボランティア講習会やイベントを実施しました。 ・着付けや語学等スキルを活用したい方や、期間中に野外で体力仕事をできない方でも着物リメイク等できることで参加するボランティア機会を提供しました。 ・継続的にボランティア活動に参加した方が一定数(15%程度)いました。 「チーボラ大作戦2019」 ・ボランティア活動を始める動機づけを目的とした連続講演会を祝日や夜間に実施しました。 ・働く世代が受講し、様々な分野で独自の社会課題に取り組む方々のお話を聞き、社会課題解決を自分事として捉え、ボランティアへの意欲を高めました。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
12	ボランティアセンター・市民活動支援センター交流会の開催 (県民生活・文化課)	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・交流会を開催する。	開催回数:2回 参加人数各40名	・9/9 第1回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】 会場:千葉県社会福祉センター 講師:NPOクラブ副代表 勝又氏 NPO支援センターちば 事務局長 永田氏 参加者9名 台風15号翌日の交通遮断による。申込者は36名。 ・2/12 第2回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【災害編】 会場:千葉県経営者会館 講師:NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク事務局長 明城氏 NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李氏 参加者33名 防災部署、福祉部署、中間支援組織含む	第1回は両センターにおいて重要になる地域の担い手育成、地域の多様な主体の場づくり、協働を促進する工夫点を学ぶ機会としました。第2回は台風15号以降の災害対応について行政・ボランティア・NPO等の三者連携を具体的に考えるため、防災部署、福祉部署、中間支援組織にも参加いただき、両センターの連携を考える機会としました。今後も両センターの交流や連携の契機となる場として開催していきます。
13	# ちょいボラキャンペーン (県民生活・文化課)	都市ボランティアに募集条件等で参加できない児童・生徒等に対して「ちょっとしたことでも「おもてなし(ボランティア)はできる」ということを体験してもらい、「おもてなしの心」や「共生」などについて肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成することを目的としている。 本キャンペーンは、児童・生徒の家族や親、友人、学校や各種団体等、多世代の様々な主体が関わることができる仕組みを実施することで、オール千葉でのおもてなしに寄与することができる。	#ちょいボラ 報告5件	「# ちょいボラ」問合せ109件 報告 17件	イベント、広報媒体による周知により、多くの県民に参加いただくことができました。報告いただいた「おもてなし」体験を東京2020大会など様々なボランティア活動への参加意識の醸成につなげてまいります。
14	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営 (県民生活・文化課)	東京2020大会において、募集条件等から都市ボランティアとして参加できない若い世代である生徒(中学生)などが、都市ボランティアへ参加・体験することで、「おもてなしの心」や「異文化交流」、「共生」について肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成する。 なお、活動エリアは千葉市・一宮町・成田市・成田空港とする。	都市ボランティア体験プログラム 500人の募集	募集中(2月28日時点 千葉348名 一宮19名 成田38名 空港150名)	県内の小中高校及び、公共施設等に募集について周知したことにより、期限までには、定員を超える応募があることが想定されます。今後、活動に向けて準備を進めてまいります。
15	地域と連携した福祉教育の推進 (健康福祉指導課)	県民の福祉に対する理解と関心を深め、福祉活動への自発的な参加意欲を醸成するため ・小・中・高校を対象に福祉教育推進校を指定 ・福祉教育研究県大会及び福祉教育推進員養成研修を実施する。	・新たな推進校の指定 ・福祉教育研究県大会の開催 ・福祉教育推進員養成研修の実施	・令和元年度指定校 小学校9校、中学校6校、高等学校6校 ・福祉教育研究県大会 8/20開催 参加者250名 ・福祉教育推進員養成研修 実施日 4/19, 7/31, 8/2, 8/20, 8/23 修了者 38名	新たな推進校の指定については、目標を達成することができました。 福祉教育研究県大会の開催については、目標を達成することができました。 福祉教育推進員養成研修の実施については、目標を達成することができました。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
16	ボランティア活動の振興(ボランティア振興事業) (健康福祉指導課)	ボランティア等の民間福祉活動の育成発展を図るため、各種ボランティア研修事業等を行う千葉県ボランティア・市民活動センターの運営や研修事業を補助する。	・千葉県ボランティア市民活動センターの運営事業補助 ・研修事業補助(ボランティア・市民活動コーディネーター研修、リーダー研修、新たな担い手育成セミナー)	・ボランティアリーダー研修(5回開催) 実施日 8/19 参加人数48名 8/26 参加人数45名 1/10 参加人数45名 1/24 参加人数22名 2/18 参加人数28名 合計 188名 ・ボランティアリーダーマネジメント研修 隔年開催により実施無し ・ボランティア・市民活動支援センター研修 実施日 9/9開催 参加者9名 ・ボランティアコーディネーター研修 <精神編> 実施日 10/31開催 参加人数19名 <災害編> 実施日 2/12開催 参加人数33名 ・新たな担い手(大学生ボラ)セミナー 実施日 2/16開催 参加人数77名	計画している左記研修について、適正に実施しています。
17	高校生のためのボランティア体験講座 (さわやかちば県民プラザ)	ボランティア活動に関心のある千葉県内の高等学校に在学している者を対象に様々な分野のボランティアについての講義と演習を実施する。	開催日数3日間、 実習7時間以上、 3会場参加数計110名	(柏会場:さわやかちば県民プラザ) 6/9:計53名 ボランティア基礎 ボランティア活動を考える 活動計画作成 7/15:計51名 児童保育ボランティア 東京2020のボランティア 福祉ボランティア体験 活動計画作成 9/22:計31名 国際ボランティア 環境ボランティア 体験活動交流会 (東金会場:県立東金青年の家) 6/22:計25名 ボランティア基礎 福祉ボランティア体験 活動計画作成 6/23:計25名 児童保育ボランティア 環境ボランティア ボランティア活動を考える 活動計画作成 9/29:計19名 国際ボランティア 東京2020のボランティア 体験活動交流会 (小見川会場:県立小見川少年自然の家) 6/15:計13名 ボランティア基礎 ボランティア活動を考える 活動計画作成 6/16:計13名 児童保育ボランティア 環境ボランティア 福祉ボランティア体験 活動計画作成 9/23:計11名 国際ボランティア 東京2020のボランティア 体験活動交流会	講座受講前と全講座受講後のボランティア感に大きな変容がありました。一般的なボランティアの固定観念(人助け、支援、介護)から「自分の為、難しく考えない、自分が楽しむ、自分自身の成長」といった考え方に変わりました。このことから、目標を十分達成することができました。
18	体験活動ボランティア活動入門講座 (さわやかちば県民プラザ)	ボランティアを始めたいと思っている方や興味のある方を対象に、ボランティアの基本や身近にできるボランティアについて学ぶ講座を開催する。	開催回数1回 参加数30名	「ボランティアの基礎」、講師:興梠寛氏(昭和女子大学)、会場:さわやかちば県民プラザ、参加者:1名(一般) * 高校生のボランティア体験講座(柏会場)と同時開催	受講生にとって、ボランティアは、「誰のために、何の為に行動するか」を考えるきっかけとなりました。ボランティアに参加する意識付けとなり、目標を達成することができました。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
19	体験活動ボランティア活動実践講座 (さわやかちば県民プラザ)	ボランティアの具体的な実践を学び合うことにより、ボランティア活動を効果的に進める実践力を向上させる講座を開催する。	開催回数1回 参加数30名	「子どもの体験活動の意義、プログラムの企画立案、運営上の留意点などを体験的に学ぶ」、講師：山本裕一氏(青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科)、会場：さわやかちば県民プラザ、参加者：12名	企画担当者の思いを実現するための留意点から、受講者に新たな視点をもたらすとともに、架空の事業計画書作成を通じて、講義の目的である実践的技術の向上が図れました。
20	教育支援NPO・ボランティア等研究実践交流会 (さわやかちば県民プラザ)	教育支援を行っているNPOやボランティア団体等を対象に、事例研究や講演を通し、資質向上や参加者間のネットワーク構築を図る。	開催回数1回 参加数100名	【予定】2/29 実施予定	2/29実施予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止
21	ちばっ子学び塾(ボランティア体験) (さわやかちば県民プラザ)	ちば子ども大学事業で実施する講座のうちの1講座で、小学校4年生から6年生を対象に、ボランティア体験やボランティアノートの取組を通して、ボランティアへの意欲向上を図る。	開催日数2日間 参加数30名	7/6 第1回 ボランティアとは、ボランティアノートの使い方、第2回のボランティア活動を考える、会場：さわやかちば県民プラザ、参加者：6名 11/4予定であった第2回は、施設休所のため中止	ワークショップにより、それぞれの考えをたくさん出せるようになり、第2回に向けて主体的に活動する様子が見られました。第1回での目的は達成できました。

2 地域コミュニティを支える人材づくり

県民活動を通じた人材育成を促進するため、様々な分野での活動の機会の創出やノウハウを学ぶ場づくりを行います。併せて、東京2020大会を契機として共生社会を担う人材の育成を図ります。

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標2-1] ボランティア活動に継続して参加している人の割合	10.1% ²	目標	13.0%	16.5%	20.0%
		結果	8.9%	17.2%	
		目標比	-4.1p	+0.7p	
		前年比	-1.2p	+8.3p	

2 第54回県政に関する世論調査結果より

(1) 様々な県民活動で活躍する人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
22	次世代ボランティア人材育成事業 (県民生活・文化課)	地域コミュニティを構成する様々な主体が、連携・協働しながら、地域を担う次世代のボランティア人材を、効率的かつ持続的に育成することを狙いとして、市民活動団体等から企画提案を募集しています。	市民活動団体等からの企画提案に沿った事業の実施	委託先:特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 業務名:2020ちばおもてなし隊 チャレンジステージ ~「参画」、「つながり」から「人づくりへ」~ 9/25 パラコネクト事業 参加者:14名 11/23 日本文化体験 参加者:11名 12/14 ボランティアトライアル2019 参加者:131名 2/15 フォーラム2020 わたしたちのおもてなし 参加者:45名 ちばおもてなし隊「広場」(SNS)の開設	3団体からの応募があり、1団体を採択しました。各事業を高校生、大学生が中心となり企画・運営し、障害者、外国観光客、留学生、自治体職員など様々な主体と交流し、次世代人材の育成を行いました。 大学生と特別支援学校の生徒によるボランティア体験を行いました。 外国人観光客に日本文化を伝えることで交流を行いました。 留学生や外国人の親子と日本文化体験やパラスポーツ体験を通じて交流を図りました。 各活動を発表し、今後の「やってみよう」ボランティア活動について、県内自治体職員と共に考えました。 SNS(LINEat)を開設し、情報発信をすることで今までに関わりのなかった高校生の事業への参加が見られました。
23	コーディネータースキルアップ講座 (県民生活・文化課)	市民活動支援センター、ボランティアセンタースタッフのコーディネーションスキル向上を目的としたセミナーを開催する。	2回開催	・9/9 第1回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】 会場:千葉県社会福祉センター 講師:NPOクラブ副代表 勝又氏 NPO支援センターちば 事務局長 永田氏 参加者9名 台風15号翌日の交通遮断による。申込者は36名。 ・2/12 第2回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【災害編】 会場:千葉県経営者会館 講師:NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク事務局長 明城氏 NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李氏 参加者33名 防災部署、福祉部署、中間支援組織含む	第1回は両センターにおいて重要になる地域の担い手育成、地域の多様な主体の場づくり、協働を促進する工夫点を学ぶ機会としました。 第2回は台風15号以降の災害対応について行政・ボランティア・NPO等の三者連携を具体的に考えるため、防災部署、福祉部署、中間支援組織にも参加いただき、両センターの連携を考える機会としました。 今後も両センターの交流や連携の契機となる場として開催していきます。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
24	災害時外国人サポーター養成講座 (国際課)	災害時における外国人支援として、外国語通訳や避難所での対応の仕方など外国人支援を行うサポーター養成講座を開催する。	3回開催	委託先:(特非)多文化共生マネージャー全国協議会 【結果】 第1回(7/6) 会場:野田市内 参加者:35名(外国人支援ボランティア)、7名(外国人) 第2回(11/7) 会場:千葉市内 参加者:13名(市町村職員)、11名(外国人) 【予定】 第3回(2/1) 会場:佐倉市内 参加者:40名(外国人支援ボランティア)、13名(外国人)	実施目標を達成することができる見込みです。今後も引き続き外国人支援ボランティアを養成できるよう、市町村と連携して事業を進めていきます。
25	災害対策コーディネーターの養成 (防災政策課)	地域の防災活動や災害時の支援活動において中心的な役割を担う「災害対策コーディネーター」など、地域の防災リーダーを養成する市町村の取組について、「千葉県地域防災力向上総合支援補助金」の活用等により支援する。	災害対策コーディネーターの増加	3市において養成講座を実施し、新たに災害対策コーディネーターとして登録された方を含め、平成31年1月末時点の登録者数が1,376名となり、前年度末と比較し、79名の増加となりました。 また、2月以降も3市町で養成講座の実施を予定しております。 (実施市:木更津市、市原市、いすみ市) (2月以降実施予定:木更津市(2回目)、富津市、大多喜町)	災害対策コーディネーター登録者数は増加しており、目標を達成しています。
26	災害対策コーディネータースキルアップ講座 (防災政策課)	災害対策コーディネーターが、広域的な連携・協力関係を築き、より実践的な防災知識を習得するため、災害対策コーディネータースキルアップ講座を開催する。	開催回数 1回	R2.3.23に実施予定であるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、現在実施の可否を検討中	
27	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)育成事業 (健康福祉指導課)	地域福祉活動を担う方を対象とする「基礎研修」、社会福祉等に係る個別支援又は相談支援を担う方を対象とする「専門研修」、専門研修の修了者を対象とする「フォローアップ研修」を実施し、地域において活躍する人材の育成・スキルアップを図る。	1 基礎研修 定員150名以上 複数回の開催の場合は合計 2 専門研修 定員30名以上 複数回の開催の場合は合計 3 フォローアップ研修 定員20名以上 複数回の開催の場合は合計	(R2年2月14日現在) ・基礎研修延べ受講者数 153名 (実施数4回/実施予定数5回) 2月18日第5回実施予定 ・専門研修修了者数 69名 (実施数5日/実施予定数5日) ・フォローアップ研修受講者数 2名 (実施数1回/実施予定数1回)	年間の研修計画に沿って実施しています。引き続き目標を達成できるよう進めます。
28	千葉県生涯大学校における地域を担う人材の育成 (高齢者福祉課)	高齢者が地域の様々な問題解決に向け、専門性を身につけ、地域活動の担い手として活躍することができる人材を養成する。	入学者数の増加	令和2年度入学予定者数 1,017名 (R2年1月末日現在)	入学予定者数は1月末の段階で1,017名であり、定員充足率は74%となっています。今後2次募集を行うにあたり、効果的な広報等を行い、入学者を確保していきます。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
29	我がまちシニア応援プロジェクト事業 〔高齢者福祉課〕	介護予防や生活支援など高齢者の暮らしを支える地域福祉団体の機能強化を図るため、情報発信やマーケティング等の運営面で専門的なスキル・経験等を活かし活動を行うボランティア(プロボノワーカー)を派遣し、その取組を支援する。	支援団体数5団体	プロボノワーカー16名で5団体の支援を終了	3年間で計13団体に対し支援を実施しました(今年度で事業終了)
30	元気高齢者活躍サポート事業 〔高齢者福祉課〕	高齢者の社会参加を促し、高齢者が地域の担い手として活躍できるよう生活支援の担い手の養成等を行う事業に対し補助を行う。	養成人員400人	5/16～6/17 募集(応募13団体) 7/16 選考委員会(採択13団体) 7月～8月 交付決定、事業開始 3/12 事業成果発表会	13団体を採択し、計746人の養成を見込んでいたため、目標を達成できる見込みとなっています。
31	食生活改善推進員研修事業 〔健康づくり支援課〕	地域で活動している食生活改善推進員(以下「推進員」という。)に対し、教育研修を開催し資質の向上を図るとともに、推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等を開催することによって県民の食生活の改善を推進する	(1) 地域別研修の開催 14回 (2) 中央研修会の開催 1回400名 (3) 一般財団法人日本食生活協会が実施する研修会等への推進員の派遣 (4) 推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等の開催 103回	以下の計画により実施見込み (1) 地域別研修の開催 18回 (2) 中央研修会の開催 1回460名 (3) 一般財団法人日本食生活協会が実施する研修会等への推進員の派遣 15名 (4) 推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等の開催 132回	計画に沿って実施しており、実施目標を達成できる見込みです。
32	がん検診推進員育成講習会事業 〔健康づくり支援課〕	各市町村の健康づくり推進員、保健推進員及び食生活改善推進員等に対し講習会を行い、がん検診推進員として育成し、これらの人材の協力を得て、各地域でがん検診の声かけ運動等を実施することにより受診率の向上を目指す。	年6回の講習会を開催し、がん検診推進員の増員を図る。	6ブロック中、6ブロックで開催済み。 参加人数:208名	各ブロックごとに、地域性を考慮したテーマやがん種を選定し、早期発見につながるがん検診の重要性を啓発しています。 アンケート結果より、「講習会は声かけ運動をするための参考になったか」について「参考になった」が90%以上であり、わかりやすい内容で参加者からは好評でした。 今後も講習会を実施し、がん検診受診率向上のための取組を進めていきます。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
33	精神保健福祉ボランティア育成事業 〔障害者福祉推進課〕	現在活動中の精神保健福祉ボランティア及び心の保健医療通訳ボランティアを対象に、フォローアップ講座や研修会を開催する。(精神保健福祉センターにおいて実施)	・精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座 講座の開催 ・心の保健医療通訳ボランティア講座 講座の開催	(結果) 令和元年度精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座 日時:R元/10/31 10:00～15:30 会場:千葉県社会福祉センター 4階第1会議室 参加者:29名 内容:午前の部 講義「傾聴基礎講座」 講師:NPO法人スピリッツ 理事長 下大園麻衣氏 理事 石丸貴子氏 午後の部 講義「中高年層のひきこもりの方との関わり方」 講師:NPO法人道草の家 理事兼システム開発部長 江藤俊雄氏 講義「中高年のひきこもりの理解」 講師:千葉県精神保健福祉センター次長 石川真紀 ・心の保健医療通訳ボランティア講座 (日時)R2/2/25 13:30～16:00 予定(会場)千葉市男女 共同参画センターにて開催予定	・精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座について 本講座修了生は、地域の障害者支援機関の職員として就労している人も多くなり、今後参加者の増加は見込めないため、来年度は本講座単独での開催は行わない予定です。 ・心の保健医療通訳ボランティアについて 外国人の相談が増加しており、令和2年2月現在、通訳調整相談25件、そのうち通訳派遣9件と前年度(通訳相談調整6件、そのうち通訳派遣1件)に比べ急増しています。今後も通訳派遣のニーズが高まることが予想されます。
34	外国語による観光ボランティアガイド養成事業 〔観光企画課〕	東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、外国人観光客へのおもてなしの向上と更なる誘客のため、県内における外国語による観光ボランティアガイドの充実を図る。	魅力的な観光地づくりの担い手となる人材の育成	外国語観光ボランティアガイド養成講座開催事業 〔結果〕 観光ボランティアガイド講座 12/5 千葉経済大学 参加者76名 〔予定〕 外国語観光ボランティアガイド養成講座 2/3 松戸商工会議所 2/13 佐原市中央公民館 2/21 市原市市民会館 観光ボランティアガイド団体の広報・周知事業 〔予定〕 パンフレット「千葉県観光ボランティアガイド」内容を刷新し、関係団体へ配布	全日程実施後に評価を行います。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
35	ちば食育ボランティアの活動支援 〔安全農業推進課〕	ちば食育ボランティアに対する基礎研修とスキルアップ研修を行う。 (ちば食育ボランティア登録者数4,121名 平成31年3月末現在)	・ちば食育ボランティア研修会 年度内2回の開催。参加数 50名×2回。	【結果】 8/22 第1回研修会(基礎研修) 会場:千葉市生涯学習センター 参加者:70名 内容:教えてちばの恵み、ちば食育ボランティアの活動報告、情報交換等 11/14 第2回研修会(スキルアップ研修) 会場:千葉市生涯学習センター 参加者:73名 内容:ちば食育サポート企業の取組事例報告、「ゲー・パー食生活」を楽しく実践しよう	目標を達成することができました。 今後も、ちば食育ボランティアの活動を支援していきます。
36	地域とともに歩む学校づくり推進支援事業 〔生涯学習課〕	学校と地域が連携して、地域コミュニティを構築し、地域の子供たちを地域で育てていくため、学習支援や環境整備、登下校時の見守りなど、地域と学校が連携・協働して行う活動や学習が遅れがちな中学生等を対象とした原則無料の学習支援など、地域学校協働活動を推進する。そのため、地域学校協働活動推進員や協働活動サポーターを養成する研修会を開催する。	地域学校協働本部がカバーする小中学校の割合を平成30年度より上げる。(政令市・中核市は除く) H30実績:16市町158本部 230校(カバー率26.8%) *学校の増減に影響されないように指標を「地域学校協働本部がカバーする小中学校の割合」に変更	24市町226本部 326校(カバー率38.7%)を対象に実施	地域学校協働本部については、目標を達成することができました。今後は、未実施市町村等に対して本部の設置を呼びかけていきます。
37	放課後子供教室推進事業 〔生涯学習課〕	すべての子供を対象として、放課後や土曜日等に小学校の余裕教室等を活用し、安全に配慮しながら地域住民の参画を得て、交流活動等に取り組むなど、心豊かで健やかな子供の育成を目指す。そのため、コーディネーターや教育活動サポーターを養成する研修会を開催する。	放課後子供教室がカバーする小学校の割合を平成30年度より上げる。(政令市・中核市は除く) H30実績:31市町232校(カバー率35.2%)で実施 *学校の増減に影響されないように指標を「放課後子供教室がカバーする小学校の割合」に変更	31市町247教室 実施校及びカバー率は4月に判明	放課後子供教室については、目標を達成できる見込みです。今後は、未実施市町村等に対して、教室の設置を呼びかけていきます。
38	「読み聞かせボランティア入門講座」の開催 〔中央図書館〕	絵本の読み聞かせについての講演及び参加者による実演と講師のアドバイス等を行い、読書の重要性や本の選び方、読み聞かせの方法など、実践に役立つスキルを学ぶ。	開催回数2回、参加者80名	・9/26 読み聞かせボランティア入門講座 テーマ「絵本の読み聞かせ 選び方と読み方の実践」 講師:小谷孝子氏、東ひろみ氏(船橋市・南房総市 ゆか下文庫) 会場:長南町中央公民館 参加者:25名 ・1/30 読み聞かせボランティア入門講座 テーマ「絵本の読み聞かせ 選び方と読み方の実践」 講師:入交静氏(にんじん文庫) 会場:多古町コミュニティプラザ 参加者:29名	1回目、2回目ともアンケートの結果、内容は好評でしたが、近隣の方の参加が主となりました。今後は、より幅広く参加いただけるよう、開催地や時期を検討していきます。

(2)東京2020大会を契機とした人材づくりとレガシーの創出

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
39 再掲	都市ボランティアの募集・運営 (県民生活・文化課)	東京2020大会開催時及びその前後の期間において、会場最寄駅や主要駅、空港などで本県を訪れる旅行者等に対して、交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う「都市ボランティア」を募集し、関係市町と連携し運営をする。さらに、東京2020大会に向けた取組を一過性のものとせず、醸成した機運や活動の継続などを県全域に波及させ、大会後のレガシー(持続的効果)として、ボランティア活動の更なる発展につなげることを目指す。	5エリアでの共通研修の実施。 メルマガ配信5回。	5エリアで計29回の共通研修を実施。(台風による中止2回、新型コロナウイルス感染症の影響による中止1回) メルマガ25回配信。(2/28現在)	共通研修では、Field castと同様のテキストによる「東京2020大会の概要」や「障害のある方への理解を深める内容」に加え、千葉県独自のテキスト・ハンドブックにより、千葉の観光・魅力発信や県内交通、観光を活用した効果的な発信方法を学ぶ研修を実施しました。メルマガも目標を大きく上回って配信することができました。
40	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座 (県民生活・文化課)	東京2020大会の本県での開催に向けて、簡易な外国語を用いて道案内等の手助けを行うことができる人材の育成を目的に、「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成講座を開催し、外国人観光客等が安心して千葉県に滞在できる環境を整える。	おもてなしコース 開催回数:3回 セットコース 開催回数:3回 フォローアップコース 開催回数:2回	おもてなしコース5回(うち学生限定2回) 四街道市54名・南房総市34名・市川市56名・城西国際大27名・麗澤大20名 セットコース 3回 山武市40名・柏市40名・習志野市39名 フォローアップコース 2回 成田市23名・千葉市233名	・ 8月31日まで計8回開催し、計292名ものボランティアを育成することができました。 第1回は語学のフォローアップ、第2回はおもてなしの心のフォローアップを行い233名ものボランティアのスキルアップすることができました。
41 再掲	#ちよいボラキャンペーン (県民生活・文化課)	都市ボランティアに募集条件等で参加できない児童・生徒等に対して「ちょっとしたことでも「おもてなし(ボランティア)」はできる」ということを体験してもらい、「おもてなしの心」や「共生」などについて肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成することを目的としている。 本キャンペーンは、児童・生徒の家族や親、友人、学校や各種団体等、多世代の様々な主体が関わることができる仕組みを実施することで、オール千葉でのおもてなしに寄与することができる。	#ちよいボラ 報告5件	「#ちよいボラ」問合せ109件 報告 17件	イベント、広報媒体による周知により、多くの県民に参加いただくことができました。報告いただいた「おもてなし」体験を東京2020大会など様々なボランティア活動への参加意識の醸成につなげてまいります。
42 再掲	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営 (県民生活・文化課)	東京2020大会において、募集条件等から都市ボランティアとして参加できない若い世代である生徒(中高生)などが、都市ボランティアへ参加・体験することで、「おもてなしの心」や「異文化交流」、「共生」について肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成する。 なお、活動エリアは千葉市・一宮町・成田市・成田空港とする。	都市ボランティア体験プログラム 500人の募集	募集中(2月28日時点 千葉348名 一宮19名 成田38名 空港 150名)	県内の小中高校及び、公共施設等に募集について周知したことにより、期限までには、定員を超える応募があることが想定されます。今後、活動に向けて準備を進めてまいります。
43	通訳ボランティア養成事業 (国際課)	東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に伴い、海外から多くの方が本県を訪れることが見込まれることから、外国人へのおもてなしの充実に向けて、英語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、通訳ボランティアの養成研修を実施する。	4講座	委託先:(公財)ちば国際コンベンションビューロー 【結果】 第1回千葉市(8/31、9/7)、第2回千葉市(9/28、10/5)、 第3回東金市(10/24、10/31)、第4回東金市(11/13、11/20) 4講座合計で111名が修了(英語111名)	実施目標を達成することができました。 受講された方に対し、東京オリンピック・パラリンピックに向けてボランティアスキルを維持できるよう、活動機会が提供できるように努めます。

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

市民活動団体等の抱える人材面、資金面の課題に対して適切な支援を行うことのできる中間支援組織の支援や民が民を支える仕組みの普及を通じて、団体が持続的に活動できる環境整備に向けた基盤強化等を図ります。

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標3-1] 市民活動団体の活動へ参加(活動・寄附・支援)している人の割合	32.8%	目標	34.0%	35.5%	37.0%
		結果	28.3%	31.6%	
		目標比	-5.7p	-3.9p	
		前年比	-4.5p	-3.3p	
[指標3-2] 寄附を受けたことがあるNPO法人の割合	59.4%	目標	60.0%	60.0%	60.0%
		結果	56.5%	54.1%	
		目標比	-3.5p	-5.9p	
		前年比	-2.9p	-2.4p	

1 第54回県政に関する世論調査結果より

2 千葉県NPO法人実態調査結果より

(1)市民活動団体等の組織運営力等の向上支援

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
44	市民活動団体マネジメント事業 (県民生活・文化課)	市民活動団体が安定的・継続的に活動していくために必要な運営能力の向上を図るため、市町村と共催で市民活動団体マネジメント講座を実施する。講座は活動経験の浅い団体向けの基礎編と、ある程度活動経験を積んだ団体向けの応用編を開催し、マネジメント能力の向上を促進する。	基礎編 開催回数4回 応用編 開催回数2回	受託団体:認定NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ ・10/5、10/31事務力集中セミナー 講師:全国NPO事務支援カンファレンス認定講師 鍋嶋洋子、風間文子 会場:千葉市内、柏市内 受講者:23名、28名 ・11/12NPOの日常会計処理 講師:加藤 達郎(加藤達郎税理士事務所所長) 会場:柏市内 受講者:27名 ・12/4NPOの労務 講師:石井 敏則(社会保険労務士) 会場:船橋市内 受講者:38名 ・2/8 さよなら共助社会 社会課題解決ではないNPOの本来の役割を確認しよう 講師:松原 明(認定特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度を作る会副代表) 会場:柏市内 受講者:46名 ・2/13 総会準備講座 NPO法人の決算、年度末処理 講師:豊岡 正広(税理士、NPO法人NPO支援の税理士ネットワーク理事長) 会場:船橋市内 受講者:37名	中間支援組織に委託して実施しています。 実施に当たっては、双方の知見やノウハウを活かした展開としています。例えば、受託団体の企画力、県の持つ広報ルートの活用などを併せることで、相乗効果を生み出しています。

(2) 中間支援組織の機能強化支援

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
45 再掲	ボランティアセンター・市民活動支援センター等交流会の開催 〔県民生活・文化課〕	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・交流会を開催する。	開催回数:2回 参加人数各40名	<p>・9/9 第1回研修会・ボランティアコーディネーター研修会〔基礎編〕 会場:千葉県社会福祉センター 講師:NPOクラブ副代表 勝又氏 NPO支援センター ちば 事務局長 永田氏 参加者9名 台風15号翌日の交通遮断による。申込者は36名。</p> <p>・2/12 第2回研修会・ボランティアコーディネーター研修会〔災害編〕 会場:千葉県経営者会館 講師:NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長 明城氏 NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李氏 参加者33名 防災部署、福祉部署、中間支援組織含む</p>	<p>第1回は両センターにおいて重要になる地域の担い手育成、地域の多様な主体の場づくり、協働を促進する工夫点を学ぶ機会としました。</p> <p>第2回は台風15号以降の災害対応について行政・ボランティア・NPO等の三者連携を具体的に考えるため、防災部署、福祉部署、中間支援組織にも参加いただき、両センターの連携を考える機会としました。</p> <p>今後も両センターの交流や連携の契機となる場として開催していきます。</p>
46	市民活動支援組織ネットワークによる中間支援組織の機能向上と連携強化 〔県民生活・文化課〕	市民活動支援組織の機能向上及び連携強化のため、県内の主要な市民活動支援組織の関係者を構成員とする千葉県市民活動支援組織ネットワークを運営し、支援組織に必要とされるノウハウや知識を習得するための研修を実施する。	ネットワーク会議等の開催回数 4回	<p>第1回幹事会 日時:10/8 会場:県民活動情報オフィス 参加者人数:13名</p> <p>第1回防災作業部会 日時:12/6 会場:県民活動情報オフィス 参加者人数:9名</p> <p>第1回人財作業部会 日時:12/6 会場:県民活動情報オフィス 参加者人数:6名</p> <p>第1回全体会 日時:1/27 会場:千葉商工会議所 参加者人数:37名</p>	<p>例年通り、市民活動を支援する主体でネットワークを形成し、幹事会で企画した研修会を全体会で実施しました。</p> <p>全体会では、昨年発生した台風15号等災害を鑑み、「災害時のNPO・中間支援組織の役割」をテーマとし、ネットワーク加盟団体から台風15号等災害における支援活動の事例発表をして頂くとともに(特非)岡山NPOセンター 石原代表理事より講演・ワークショップをして頂きました。</p> <p>また、本年度より特定のテーマについて深く調査研究を行う作業部会の設置を可能とし、市民活動の分野で特に重要である「防災」と「(中間支援)人財」の二つの分野で作業部会を行いました。次年度以降もこれを継続していきます。</p>

(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
47	民が民を支える仕組みの普及・支援 〔県民生活・文化課〕	「民が民を支える仕組み構築モデル事業」(H23～24)において構築された仕組みについては、県が実施するイベントや県ホームページ等において周知・PRするほか、運営主体との情報交換や意見交換を行うなど、協力することで、仕組みの活用促進を図る。	運営主体との情報交換の場を設ける	<p>・休眠預金等活用制度が開始するため、制度周知のチラシ作成、メルマガ等の広報を実施。</p> <p>・休眠預金等活用制度周知と多額の資金を運用できる組織基盤強化支援として事業や組織評価のセミナーを開催。</p> <p>・寄付月間2019の賛同パートナーとして、寄附をテーマとしたセミナーを2月に開催。</p>	<p>休眠預金等活用制度の情報を県HPやメルマガ等で随時発信しながら、応募の有無に関わらず、組織基盤強化につながるテーマでセミナーを開催しました。</p> <p>・引き続き、休眠預金の情報は収集しながら、必要な団体支援を精査していきます。</p>

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

行政、中間支援組織、市民活動団体、地縁団体、社会福祉協議会、学校、企業など多様な主体が連携・協働して行う地域の課題解決に向けた取組や仕組みづくりへの支援や、県行政と市町村行政間の情報共有などによる協働の推進を図ります。

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標4-1] 地域の様々な主体と連携している市民活動団体の割合	69.8% ¹	目標	70.0%	71.0%	72.0%
		結果	66.0%	66.6%	
		目標比	-4.0p	-4.4p	
		前年比	-3.8p	+0.6p	
[指標4-2] 市町村行政・県行政と市民活動団体との協働事業の件数	615件 ²	目標	625件	635件	650件
		結果	635件	624件	
		目標比	+10p	-11p	
		前年比	+20p	-11p	

1 千葉県NPO法人実態調査結果より

2 千葉県NPO・ボランティア関連事業一覧、県内市町村NPO・ボランティア関連事業一覧より
(千葉市は独自集計のため、件数に含まれていません。)

(1) 地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
48	協働によるコミュニティづくりの普及・促進 (県民生活・文化課)	過去に県が支援した協働による取組が行われていない地域等を対象に、市町村と地縁団体、市民活動団体、企業等が、協働による取組を検討する契機となるよう、有識者による講演や優良事例の共有等を行う。また、各地で活動を行っている主体が、地域を超えた連携・協働につながる契機となるような交流会を実施する。	それぞれ県内3地域で実施	<p>【結果】</p> <p>安房地域：「これからの地域づくりに何が必要か～協働の必要性について～」(7/20、館山市コミュニティセンター、参加者78名)</p> <p>千葉地域：「休眠預金等活用から考える、民間公益活動」(7/23、千葉市幕張勤労市民プラザ、参加者34名)</p> <p>山武地域：「今こそ考える、地域をつなげる役割」(1/20、大網白里市保健文化センター、参加者54名)</p> <p>香取地域：「協働の心構え」(1/31、香取市役所、参加者39名)</p> <p>東葛地域：「相互理解が生み出す”継続寄附”」(2/10、まつど市民活動サポートセンター、参加者21名)</p> <p>【中止】</p> <p>安房地域：「次世代と共に地域をつくる！これからの“参加”の仕組みを考えよう」(11/21)</p> <p>葛南地域：「SDGsを合言葉に！NPOと企業の連携を考える～」(2/21)</p>	全7回の開催準備をしていましたが、台風やコロナウィルスの影響で2回は開催ができませんでした。来年度の実施に向け調整していきます。 セミナー開催にあたっては、地域ごとの課題に応じたテーマ設定とし、セミナー開催前に地域の担当課職員での意見交換の場を設ける等、セミナー後の波及効果を高められるよう運営しています。 また、休眠預金や寄附等、県として発信すべきテーマについてもセミナーを開催しました。 今後も、地域での協働が進む運用方法を検討していきます。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
49	ちばコラボ大賞 〔県民生活・文化課〕	市民活動団体が地縁団体、社会福祉協議会、学校・大学、企業、行政機関等と連携して、それぞれの特性を活かしながら地域社会の課題解決に取り組んでいる事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例に取り組んでいる団体を表彰し、広く県民に周知することにより、連携による地域づくりの促進を図る。	応募件数 15件以上(平成30年度13件) 表彰事例 3事例 (平成30年度3事例)	6/1～8/1 事例の募集(応募7件) 10/18 外部委員による審査会 12/18 表彰式及び事例発表会	応募件数については目標には至らなかったものの、7件の応募の中、3事例を選考しました。 表彰式では、表彰団体による事例発表も併せて開催し、84名の方に参加していただくことができました。 今後は募集段階における広報の方法の見直し等を行いながら応募件数の増加を図り、また各市町村の協働の実態に即して適宜内容を改善していく必要があります。
50	千葉県男女共同参画フェスティバル 〔男女共同参画センター〕	本県の男女共同参画社会づくりに向けた機運を高めるため、県民が男女共同参画への理解を深める機会とするとともに、男女共同参画に取り組む民間団体と県民の交流の場を提供する「千葉県男女共同参画フェスティバル」を開催する。 ・企画運営委員会(ボランティア)の設置 ・講演会の開催 ・ワークショップの開催	開催回数1回	1/19(日) 13:00～16:30 「千葉県男女共同参画フェスティバル」 会場:千葉市生涯学習センター 内容 講演会「笑う門には福来たる!～いつの世も男女は支え合って生きている～」 講師:柳家 三之助氏(落語家) 参加者計:220名 ワークショップ(6団体) 参加者計:276名 参加者合計(+):496名	参加者にとって利便性の高い会場で開催することに加え、より幅広い年齢層の県民の参加を得られるよう工夫していきます。
51	地域福祉フォーラムの設置・活動の促進 〔健康福祉指導課〕	地域住民が、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、NPO等地域福祉の担い手、更には福祉以外の各分野の人たちと協働して、地域における福祉等のあり方・取組みを考えていく組織である地域福祉フォーラムの設置を促進する。	新規設置数 基本 5箇所 小域 20箇所	新規設置数 基本 0箇所 小域 6箇所	社会福祉法人千葉県社会福祉協議会において地域福祉活動計画の研修等、様々な機会に関係者への周知を図り、フォーラム設置を進めていきます。
52	防犯ボックスを核とした地域防犯力・コミュニティ力向上事業 〔くらし安全推進課〕	防犯ボックスのさらなる普及に向け、住民に最も身近な市町村が主体となり設置する防犯ボックスの初期費用や運営費について助成する。また、県が平成27年度までに設置した千葉市、柏市、船橋市の計3箇所の防犯ボックスについては、引き続き県が運営する。	3市町村に助成を実施	6/19補助金交付決定(市川市下貝塚地区) 9/26補助金交付決定(市川市北国分地区) 11/29補助金交付決定(木更津市)	R元年7月及び11月に市川市が運用を開始しました。 R2年4月に木更津市が運用開始予定です。 引き続き、県内への防犯ボックスの普及に取り組んでいきます。
53	中小企業総合支援事業費補助金 〔産業振興課〕	地域資源(中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律に基づき千葉県知事が指定した地域産業資源)を活用した新商品・新サービス等の開発を行う中小企業者等への補助	地域資源を活用して新商品・新技術等を開発・事業化に取り組む中小企業者等を支援し、地域の特性を生かした地域産業の振興を図る。	【結果】4/5～5/10 事業の募集(応募1件) 6月上旬 書面審査(採択1件) 6/14 交付決定 5/27～6/14 2次募集(応募1件) 6月下旬 書面審査(採択1件) 7/11 交付決定 【予定】実績報告提出後 支払い	審査基準に基づき審査を行った結果、2件の採択となりました。

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
54	法人の森事業(法人の森協定) 〔森林課〕	社会貢献や環境活動を希望する企業や団体に対し、県有林の一部を「法人の森」として提供することで、CSR活動としての森林整備活動・森林環境教育活動をサポートする。	事業PR(ホームページ他) 協定締結 2件	事業PR ・10/20エコメッセ2019inちば出展 会場 幕張メッセ ・12/5～7エコプロ2019出展 会場 東京ビッグサイト ・県HPに新規協定候補地掲載 協定締結 新規2件	協定締結について、目標達成しています。引き続き事業PRに努めてまいります。
55	里山活動の支援 〔森林課〕	景観維持や県土保全等の里山の持つ多面的機能を持続的に発揮するため、地域住民や企業、里山活動団体等の多様な人々の参画による森林整備活動が促進されるよう支援を行う。	里山活動団体や企業が整備・保全する森林面積を増やす。	多様な主体による森林整備活動への参画や協働を支援するための総合窓口を設置(NPO法人に業務委託)し、各種相談対応等を行っている ・窓口相談件数 80件 ・安全講習会 2回開催 参加:105名 ・森林整備ボランティア団体のリーダー養成講座 1回開催 参加:21名 ・広報紙発行 2回	引き続き多様な主体による森林整備活動への参画や協働を支援するための総合窓口の運営に協力し、事業の効果的な推進に努めてまいります。
56 再掲	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業 〔警察本部生活安全総務課〕	自主防犯活動に意欲のある若い世代(県内の大学等に在籍、又は県内に在住、若しくは在勤する16歳以上30歳未満)により若手防犯ボランティアグループ「ブルー・スターズ」を結成し、自主防犯活動への参加・取組による若年層の防犯意識や規範意識の向上を図るほか、地域における絆の強化を図る。また、若年層等による自主防犯活動の一層の活性化のための広報啓発を実施する。	若い世代の防犯意識や規範意識の向上を図ります。	(防犯キャンペーン及び研修会への「ブルー・スターズ」の参加回数と人数) 延べ18回74人、新規会員21人(R年12月末現在) 【ブルー・スターズ参加のキャンペーン等】 密輸防止キャンペーン(成田市) ロックの日防犯キャンペーン(千葉市) 電車内における痴漢防止キャンペーン(千葉市、鎌ヶ谷市、習志野市) 薬物乱用防止キャンペーン(千葉市) 警察ふれあいフェスタ(千葉市) 第2回千葉県警察若手防犯ボランティア研修会(警察本部) 地域防犯力の向上に関する交流大会(千葉市) 歓楽街防犯対策パトロール(千葉市、松戸市等) イオンペットフェスにおけるわんわんパトロール啓発キャンペーン(千葉市)	県内各地で開催された防犯キャンペーン等に「ブルー・スターズ」の会員が参加したことにより、若年層の防犯意識や規範意識の向上が図られました。 若い世代の防犯ボランティア団体相互の交流を深め、各団体の活動の活性化と子供の見守り活動等への参画意識の高揚を図るため、「第2回千葉県警察若手ボランティア研修会」を開催し、生活安全部内が事務局をしている「ブルー・スターズ」(生活安全総務課)、「ChiPSS」(少年課)、「サイバーウォッチャー」(サイバー犯罪対策課)の3団体が参加しました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでいることから、新規会員の加入促進を図るとともに、次世代のボランティアリーダーの育成、会員による自主的な運営、県内の他団体との交流を図ることが課題です。
57 再掲	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業 〔警察本部生活安全総務課〕	県内で活動する自主防犯ボランティア団体に対して、地域の防犯情報を提供するほか、警察官との合同パトロールを実施する。その他、自主防犯ボランティアの活動の活性化を図るため、県下各署において、自主防犯パトロール隊や町会等を対象に防犯講話や情報交換会を開催する。さらに、自主防犯ボランティアへの参加促進等を行うため、広報啓発活動を実施する。	防犯講話や情報交換を通じて、自主防犯活動団体に対する支援を推進します。	・警察官との合同パトロール 2,135件 ・防犯講話 5,963件 ・広報啓発キャンペーン 831件 (いずれもR元年12月末現在)	合同パトロール、防犯講話等の実施により、自主防犯ボランティア団体の活動の活性化が図られました。自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでおり、若い世代の参加促進を図ることが課題です。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
58	千葉県警察学生サポーター「ChiPSS」活動 〔警察本部少年課〕	非行少年を生まない社会づくりの推進事業の一環として、少年の非行問題に関心があり、熱意と行動力を有する大学生を千葉県警察学生サポーターに委嘱(募集人員40人)し、警察、学校、地域と協働して、学習・スポーツ支援、居場所づくり等の立ち直り支援、街頭補導等の非行防止活動や健全育成活動を実施する。	少年の非行防止や健全育成活動を推進します。	・「ChiPSS」委嘱状況 34人 ・「ChiPSS」活動状況 延べ99回、166人 (内訳) 街頭補導活動 41回、67人 広報啓発活動 18回、22人 学習・スポーツ支援活動 17回、17人 居場所づくり 4回、17人 その他(研修等)19回、43人 (いずれもR2年1月末現在)	各種活動を通じて、少年の非行防止や健全育成活動を推進しています。 今後も、熱意・行動力のある大学生の新規獲得・委嘱に努めていくことが課題です。
59	少年補導員・少年指導委員活動 〔警察本部少年課〕	少年の非行防止及び健全育成を図るため、少年警察ボランティアを委嘱し、地域住民と協働した街頭補導活動や環境浄化活動等を推進する。	街頭補導活動や環境浄化活動等を推進します。	・少年補導員兼少年指導委員 503人 ・少年指導委員 75人 ・少年補導員、少年指導委員の活動状況 延べ1,059回 (内訳) 街頭補導活動 465回 広報啓発活動(キャンペーン) 109回 環境浄化活動 3回 その他の活動 482回 (いずれもR2年1月末現在)	各種活動を通じて、街頭補導活動や環境浄化活動等を推進しています。 今後も、熱意・行動力のあるボランティアの新規獲得・委嘱に努めていくことが課題です。

(2) 市民活動団体等と県行政・市町村行政の協働の推進

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
60	市町村と市民活動団体との連携促進事業 〔県民生活・文化課〕	各市町村の協働に関する取組や市民活動支援センターの機能強化を支援するとともに必要に応じ専門家の派遣等を行う。	派遣回数10回	専門的知見から助言を求める市町村に対して、専門家の派遣を実施 【結果】 4/20柏市 光が丘コミュニティネットワーク運営委員会 合同会社 J-doc company代表社員 影山氏 5/29鴨川市 みんなで育て鯛!まちづくり支援事業連絡会議 (特非) ディープデモクラシー・センター 加納氏 7/5茂原市 まちびとカフェ特別版 (特非) ディープデモクラシー・センター 加納氏 7/6柏市 光が丘コミュニティネットワーク運営委員会 合同会社 J-doc company代表社員 影山氏 2/9木更津市 市民活動コーディネーター講座 (特非) ディープデモクラシー・センター 加納氏 【中止】 3/16大網白里市 まちづくりコーディネーター養成講座 関東学園大学経済学部 教授 中村氏	市町村からの申請取り下げがあったため、実施目標は達成できませんでしたが、各自治体に対するアドバイザー派遣により協働の推進に寄与出来ました。今後も市町村との情報共有を密にし、より良い支援体制を整備していく必要があります。

No.	事業名	事業概要	実施目標	進捗状況	現時点での評価
61	学校と市民活動団体との連携促進事業 〔県民生活・文化課〕	地域の民間教育力を活用した地域協働の活性化を図るため、教職員向けの講座を実施することにより、NPOと学校が連携するための環境づくりを促進する。	開催回数 3回	9/21 県立学校等企画・運営リーダー育成研修「NPO活動と学校との連携」 場所：総合教育センター 参加者：88名 講師：千葉大学大学院人文公共学府博士課程後期エースチャイルド株式会社 飯島 淳氏	開催目標数は満たせませんでした。新任の教務教務主任に対して「NPOと学校との連携」に関する講義・ワークショップの実施を講師派遣により行い、協働の促進に取り組みました。なお、講師派遣数は総合教育センターの実施する研修の計画に準拠する必要があることから、次年度の実施目標は見直しを行うこととします。
62	県・市町村推進会議の開催 〔県民生活・文化課〕	効果的なNPO・ボランティア施策形成に向けて、県と市町村とが情報交換・意見交換等を行う推進会議等を開催し、県と市町村との一層の連携と協力を促進する。	・市町村市民活動調査の実施 ・担当課長会議：1回開催 ・推進会議：1回開催	市町村担当課長会議 日程：4/25 会場：千葉商工会議所 参加者：39市町村52名(県含む) 市町村市民活動担当者会議 日程：12/18 会場：千葉県庁本庁舎5階大会議室 参加者：10名(市町村職員のみ)	市町村担当課長会議 市町村市民活動担当課長を対象とした会議を開催し、県事業の概要説明を行うとともに、事例発表として、富里市で行われた寄附啓発の取組を発表して頂くとともに、非営利組織評価センター及びCANPANが取り組んでいる組織評価、及びその情報提供について発表して頂きました。発表者：富里市、(一財)非営利組織評価センター業務執行理事兼NPO法人CANPANセンター代表理事 山田泰久氏 市町村市民活動担当者会議 ちばコロバ大賞表彰式及び事例発表会と共催で行いました。市町村職員に対し、県内で行われている優良な協働事例の紹介を行うことで、各協働事業を進める上での参考として頂くことに寄与できました。
63	パートナーシップ推進員会議の開催 〔県民生活・文化課〕	県庁内における市民活動団体及び市民活動推進施策に対する理解を促進し、協働の体制を強化するため、県行政の関係課職員をパートナーシップ推進員として指定し、推進員会議を通じて理解促進や情報共有を行う。	開催回数2回	・5/24第1回、千葉県教育会館604会議室、出席者：23名 内容：パートナーシップマニュアル及び千葉県県民活動推進計画(平成30～32年度)等の説明。 講演：日本郵便株式会社 年賀寄付金事務局 竹山 吾紀明氏 千葉大学法政経済学部 関谷昇氏 ・12/18第2回(ちばコロバ大賞表彰式及び事例発表会)千葉県庁本庁舎5階大会議室、参加者(うち県職員のみ)：14名	第1回会議は、パートナーシップマニュアル等の説明や講演を通して、県職員に求められる協働の必要性、考え方の理解を促進することができました。 第2回会議は、具体的な協働事例の紹介を行うことで、各協働事業を進める上での参考とすることができました。今後も県職員として協働をいかに促進していくかを考える機会の提供や、各課との連携体制の強化を図っていきます